人口減少、地域経済の発展、町の将来を見据えた取組みを

伊奈志明会 議会報告

新政伊奈・幸福実現党・日本維新の会・無会派のグループです

平素より伊奈町議会に多大なご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

私は、町とみなさまの発展のため、志を同じくする議員４人とグループを作り、活動しています。

会派グループ名は、保守と革新の**志**を**明**らかにする意思を込めた「伊奈志明（しめい）会」。

伊奈町議会では最大の会派グループです。その責任を忘れず、町のため、みなさまのため、一致団結して行動して参ります。

佐藤弘一









藤原　よしはる

（３期　栄中央区　新政伊奈）

総務建設産業常任委員長を拝命し、この分野の審査を行い、町の行政をチェックします。

佐藤　弘一

（6期　小針新宿区　新政伊奈）

町議会の最古参の一人です。「志明」の気持ちを胸に町の発展に取り組んでいます。

山野ともひこ

（２期　中央区　幸福実現党）

議会運営委員長も拝命し、皆様と町の今と未来のため取組みさせていただいております。

仲島　ゆうた

（１期　丸山区　日本維新の会）

議員就任以来、現場を歩き、数字と制度を確かめ暮らしの課題を町政につなげております。



川内　雅人

（1期　栄南区　無会派）

これまでの議会活動を通じて、町と議会の課題を理解しましたので、課題の解決に尽力します。



佐藤弘一の一般質問

町道の整備

問　道路修繕の中期計画は策定しているか。

答　最新道路状況に合わせて修繕するため、現状では策定していないが、国の要領などを参考に、策定していく。

問　大型車通行以外の道路損傷の原因は。

答　舗装の経年劣化、軟弱地盤の沈下、地下水位の変化、気温による膨張・収縮などがある。道路損傷は複数の要因が重なり発生することも多い。

問　今後の修繕などの基本的な考え方は。

答　路面調査を実施し、優先順位を定めて計画的に修繕を進める。



町道の整備は、町民の関心の高いものの一つ。路面の劣化は、複数の原因が絡み合い、原因の特定が難しいことが分かりました。優先順位を含め、修繕計画が策定されるのは大きな進歩です。

学校体育館のエアコン整備

問　現在の進捗と、来年度以降の計画は。

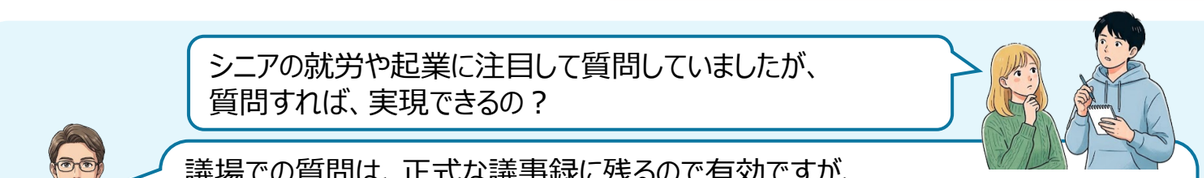
答　今年5月に小室小、小針小、伊奈中、南中4校の設計業務の契約を締結した。
令和9年度に4校の整備工事を実施。
令和10年度に南小、小針北小、小針中の整備工事予定だ。

問　整備の課題は。

答　ランニングコストや施設自体の老朽化対策も必要なこと。
また断熱改修などの内容や手法が課題だ。



長く整備を要望してきましたが、あと2年で全小中学校に完備されることが明らかになりました。
子どもたちの教育環境だけではなく、万が一の避難所としての活用時にも重要です。
ただランニングコストなど、課題も多いので、今後、町とともに検討して参ります。



横浜市の関東学院大学で、津軽石教授と





先進自治体である伊勢崎市を視察

佐藤弘一　TEL　048-728-0568　Email　skkouiti0568@yahoo.co.jp
藤原よしはる　TEL　048-721-6843　Email　yoshiharu3432@yahoo.co.jp
山野ともひこ　TEL　048-721-8155　Email　tomohiko.yamano@gmail.com
川内雅人　TEL　090-8515-2001　Email　makawauchi@gmail.com
仲島ゆうた　TEL　090-7429-3757　Email　42.yuta930.kagayaku.inatown@gmail.com

【発行人】　佐藤弘一　伊奈町小針新宿367-1　TEL　048-728-0568

会派グループ4人が、「シニア就労・起業」促進を一般質問で町に要求！

シニアが培ってきた知識や経験を地域で活かし、就業・起業を促進するべきと考え、4人が同じテーマで質問しました。

所得の増大　老後2000万円問題と言われる、老後の資金問題の改善が期待されます。

企業の維持発展　企業の死活問題である後継者不足を、シニアのスキル活用で解決できます。

町財政の改善　住民の収入増や、健康寿命の延伸は、町の財政へのプラスの効果が大きいです。

藤原よしはる



問　過去3年間の商工会での起業相談の件数は。

答　令和５年度35件、
令和６年度38件、令和7年度25件だ。
※主な相談内容は、これまでの経験やスキルを活かした、独立に関するものです。

問　シニアの起業支援を強化する考えはあるか。

答　これまでの経験や知識、スキルを活かして、新たな事業に挑戦することは、地域経済の活性化や人材の活用という点からも意義のあるものと認識。
町では、商工会や公益財団法人創業支援センター埼玉、公益財団法人いきいき埼玉と連携し、支援している。



問　企業支援と事業承継支援は、町の産業振興とどう関わるか。

答　経営者の高齢化、後継者不足
原材料など価格の高騰、人件費の上昇など経営環境の厳しさが増す中、
経営環境の厳しさが増す中、町の産業を「育てる」と「守る」という両面から、産業振興を支える重要な取組であると認識している。
（令和８年9月）

厳しい経営環境の中、シニアの起業により、元気な高齢者のパワーが伊奈町を活気づけ、伊奈町商工会と手を携えて、大きな果実を実らせてくれます。　事業承継も、マッチングにより、思わぬ成功をもたらしてくれます。

「シニアのプチ起業」



川内雅人



問　シニアの位置づけは。

答　地域社会や地域経済を支える重要な担い手としても捉えている。

問　企業の後継者不足・技術継承問題の認識は。

答　重要な課題と認識している。

問　シニア人材を起業者のメンターとして紹介するのはどうか。



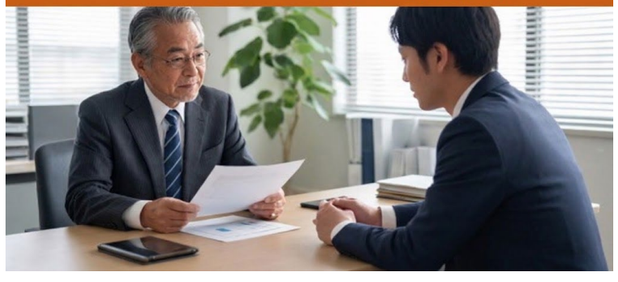
答　有効と認識。今後研究する。

問　周辺市の方が、シニアの就業支援に積極的。町外への流出の認識は。

答　町内で活躍頂けるよう、研究する。

問　就業のメリットは賃金面だけではなく、健康寿命の延伸にもつながることだ。
全国的な問題だが、伊奈町の規模での取り組みは多くない。伊奈町自身が先進事例となり、成功事例を全国に発信する考えは。

「シニアによる経営相談」



答　現状の仕組みを活用すると同時に、国や県、商工会との連携を図り、研究する。
（令和８年9月）

町としても、シニアは地域を支える重要な担い手と認識しているが、その活用方法が整えられていないことが分かりました。
町と問題意識が共有できましたので、次は具体策です。実行可能な計画につなげられるよう、町と協議します。

山野ともひこ



問　定年後のシニア層の起業や全く違った職種への転職が注目されている。
町としてもその支援を行うべきでは。

答　大変に意義のある視点と考える。

問　働いて世の役に立つことは、老後の生活資金不足を補い、かつ生きがいにもなる。
町にとっては税収増に、若壮年層にとってはシニア層の経済的自立による負担増の回避、軽減につながる。
シニア層の起業、フリーランス、プチ起業、様々な転職の支援を町の総合的な計画に位置づけてはどうか。



答　重要な視点として、関係各課や関係団体と連携し、支援を図っていく。
総合的な位置づけは今後研究し、他の計画との整合性を図りながら検討していく。
（令和８年6月）

ご参考図書→

「生きがい、生活の余裕づくり」



老後資金２０００万円不足の問題も、
定年後月10万円の収入増ができれば15年で
１８００万円になります。
定年前からの情報収集や準備が重要なため、その支援を町としても行うことの実現を協議して参ります。

「シニアと企業のマッチング」



仲島ゆうた



問　シルバー世代の活躍を、町はどう捉えているのか。

答　これまで培った知識や経験を地域で生かすことは、生きがいや社会参加だけでなく、地域活動の活性化や世代間交流につながる重要な取組と認識している。

問　活躍したい方を地域の活動へつなぐ仕組みはあるのか。

答　現在、専用の相談窓口やマッチング体制はない。相談内容に応じ、関係課、社会福祉協議会、シルバー人材センターなどにつないでいる。

問　今後、どのように進めていくのか。



答　相談を案内だけで終わらせず、関係機関等と連携し、既存事業や地域活動で生かせる可能性や課題を確認し、相談者に示せる選択肢を整理していく。
（令和８年6月）

高齢者を支えられる側だけでなく、地域を支える大切な担い手として捉える視点が必要です。学習支援、子育て、防災、地域活動など、経験を生かせる場を広げ、将来は社会参加と地域貢献を町の基本姿勢として条例や計画に位置付け、誰もが役割を持てる地域づくりにつなげていきます。一人ひとりの経験と意欲を地域の力へつなぎます。